筑波大学技術報告
34 : 71 - 91 , 2014

# 農林技術センター技術室における教育支援

山本　倫成、横山　和人
筑波大学農林技術センター技術室
〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

## １．はじめに（業務体制）

農林技術センター技術室は、農林学を基礎としたフィールド科学、特に食料・環境・エネルギー問題の解決に向けた研究・教育に供するとともに、国際化と地域貢献に寄与することを目的とした技術支援を行っている。

技術職員の組織として、教育研究推進部と農林生産技術部がある。教育研究推進部には教育・研究企画班、国際交流班、環境計画班、地域交流普及班、植物系統保存班が設置されている。農林生産技術部は農場部門と演習林部門に分かれており、農場部門は大学構内にあり作物生産技術班､園芸生産技術班、畜産生産技術班、農業機械生産技術班が置かれている。演習林部門は大学構内に筑波実験林班、長野県に八ヶ岳・川上演習林班、静岡県に井川演習林班が置かれている(図 1 )。

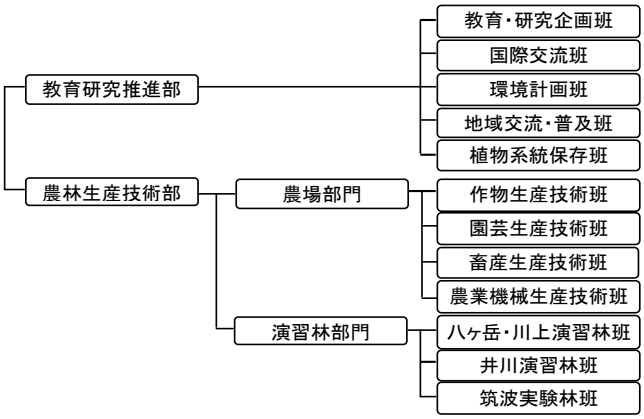


図 1. 農林技術センター技術室組織図

業務は主に班単位で行われているが、行事などでは相互に協力をする体制を取っている。また班を兼務する技術職員もいる。

教育研究推進部では、生物資源生産科学に関する実習の実施におけるさまざまな教務、研究報告の編集、研究圃場の管理運営、国際農学 ESD シンポジウムの開催などの業務を行っている。

農林生産技術部農場部門では、生産技術班ごとに次の各分野の実習教育と研究に関わる管理運営を行っている。作物生産技術班は水田作と畑作で構成され、水稲、サツマイモ、ジャガイモ、ラッカセイなどを中心とした実習教育や研究を行っている。園芸生産技術班は果樹、蔬菜、花卉で構成され、施設と圃場を利用した実習教育と研究を行っている。畜産生産技術班は飼養と飼料作物で構成され、主に乳牛とニワトリを利用した家畜の飼養管理システムの構築と鳥類における新しい遺伝資源保存の開発を目指した実習教育および研究を行っている。農業機械生産技術班は、農業機械整備と金属・木材加工で構成され、実習教育の他に各種業務や研究で利用されているさまざまな機械類の整備、点検、修理が行われている。また、金属・木材加工では、学内の諸組織から金属や木材を使用している器具や装置の工作依頼も受け付けて加工を行っている。

演習林部門は筑波実験林班、八ヶ岳・川上演習林班、井川演習林班での実習教育の他、地域の自然環境や特色のある立地条件を活かした研究が複数の分野で活発に行われている。

## ２．教育支援内容

農林技術センターで行われている教育支援は表 1 のとおりである。学内の学生に対する実習実験を対象とした教育支援が多くを占めているが、学外教育関係者や一般を対象とした教育支援活動も実施している。

表 1. 農林技術センター技術室の教育支援科目

| 学内学生対象 | 支援科目数 |
|---|---|
| 農場部門 | 8 |
| 農場部門/筑波実験林班 | 3 |
| 筑波実験林班 | 7 |
| 八ヶ岳・川上演習林班 | 5 |
| 井川演習林班 | 3 |
| 学外教育関係者 | |
| 農場部門 | 2 |
| 筑波実験林 | 1 |
| 八ヶ岳・川上演習林 | 1 |
| 一般者対象 | |
| 農場部門 | 2 |
| 農場部門/筑波実験林班 | 1 |

支援の内容は実習実験の補助の他、実習テキストの編集や成績等の取りまとめを行っている。上記表以外にも地域交流・普及活動として雑穀を用いた食育、サクラソウ里親制度、筑波大学東日本大震災復興・再生支援プログラム、科学技術週間への参加、出張教育など､市民教育活動への支援を行っている。

## ３．今後の展望

農林技術センターは 1973 年に設置され、設立から 40 年近くが経ち、多くの設備で老朽化による破損が見られるようになってきている。また、技術職員の減少により、教育活動や施設・設備の管理に支障をきたす可能性がある。今後は、幅広く多彩な業務活動がさらに求められるなかで、より良い教育支援の協力体制を作っていく必要がある。

また、新しい物事に取り組むのと同時に、既存の活動で教育に活かせるものがないかを、もう一度見直してより良い教育支援を行えるようにしたい。